

大豆NEWS!

vol7

「東北の大豆フォーラム」開催！

～生産から消費の取組と連携に向けた活発な討論～

11月30日（火）、「広げよう！進めよう！考えよう！東北大豆の生産と消費拡大」をスローガンに「東北の大豆フォーラム」（主催：東北地域大豆振興協議会）が、生産者、農協、県・市町村、試験研究機関、消費者等350名の参加により、仙台市内で開催されました。

初めに、秋田大学教育文化学部の澤井セイ子教授が「これからの食生活と大豆食品」をテーマに講演。「大豆を単に栄養素としてでなく、食料自給や伝統食品の側面も含めて、食生活の一部としてトータルのなとらえ方が必要。」と強調されました。

続いて、東北大学大学院農学研究科の工藤昭彦教授をコーディネーターに、澤井教授、牛尾陽子氏（（株）藤崎快適生活研究所取締役）、佐藤佐市氏（山形県庄内たがわ農協三川支所営農生活課課長補佐）、平川真人（（株）平川食品取締役社長）、永江啓一（東北農政局生産流通部長）の5名のパネリストによって、「大豆の消費拡大へ向けて～生産から消費の取組と連携～」をテーマにパネルディスカッションが行われました。工藤教授の「大豆には3つの風が吹いている。消費者の健康食品志向の風。食品業界の国産要望の風。水田での本作を推進する農政の風。これらの風を的確に捉え、一つの風にしていくことが重要。」とのコメントに引き続き、パネリストから生産現場での取組、加工ニーズ、大豆食品の消費拡大について、活発な意見が相次ぎました。

特に、牛尾氏からは、「これからは、ただ作るだけでなく、販売に際してマーケティング戦略的視点が必要。大豆は、新たな需要の可能性のある食品」との発言があり、アメリカで大豆リゾットなどが若者の好む料理となった例を紹介するとともに、新豆しんまめという付加価値を生かした販売が提案されました。平川氏からは、「JAも新しい考え方で販売に取り組んでほしい。生産者といっしょになって消費者ニーズに応えたい」と、生産者へエールが送られました。

また、各県の試験研究機関、東北農業試験場、仙台食糧事務所の協力を得て、会場において主要品種・新品種の見本、品種紹介パネルを展示し、参加者に大豆品種をPRしました。

なお、フォーラム参加者数は、目標の300名を上回り、大豆への関心の高さが窺われました。また、参加者からはフォーラムを継続してほしいとの要望が多く寄せられました。

（注）東北地域大豆振興協議会：11年8月に、東北管内の大豆の生産振興と需要拡大を目的に、大豆加工実需団体、流通・小売関係者、消費者団体、県経済連、試験研究機関、行政等39機関により設立。事務局は東北農政局生産流通部園芸課。

発行：不定期

発行元：農林水産省畑作振興課 豆類班 tel 03-3502-8111（内線4318、4319）

・今回の大豆News!は東北農政局の協力を受け、作成致しました。

・記事や大豆生産振興に関する御質問・御感想など、御自由にお寄せください。

・記事を転載される場合は、御一報ください。